

带状疱疹ワクチン

神経痛が残ることもある
带状疱疹発症の予防に

65歳以上の方に4月から带状疱疹の接種補助が始まっています。ピンク色の葉書が届いた方で、「今までに带状疱疹ワクチンを接種したことがない人」に、鎌倉市から接種費用の約6割が助成されるというもの。今年度中に65歳、70歳、75歳・・・95歳まで5年刻みの年齢になる人、および100歳以上は今年度に限り全員に、助成があります。生ワクチンの自己負担金は3,000円、組換えワクチンは7,000円(1回あたり。2回打つので計14,000円)です。

なぜ鎌倉市が動いたかということ、かかると痛い带状疱疹自体が増えていることと(80歳までに3人に1人が発症する)、3割くらいの人に神経痛が残ることがあることが理由です。神経痛は時には眠れないほどの痛みを感じ、ペインクリニックという痛み専門外来に長く通う人もいます。

子供の頃にかかった水ぼうそうの原因ウイルスが、治った後も体内に残り、疲れがたまったり、免疫力が低下すると活性化して、神経ぞいに炎症を起こしてきたものが带状疱疹です。皮膚がピリピリと痛くなり、そのうちに赤い発疹が神経の走行に沿って帯状に出現します(写真)。体のどこにでも起こる可能性があります。これを見つけたらなるべく早く受診してください。ひどくなると痛みが辛いので、なるべく早く(72時間以内)に医療機関を受診して抗ウイルス薬治療を受けてく

ださい。早めの治療は後遺症である神経痛発症の予防効果もあります。

ワクチンを打つのはとても有効な対策です。かかりにくくなれば、当然後遺症である神経痛にもなりにくくなります。現在2種類のワクチンがあって、一つは子供の使う水痘生ワクチン。これを50歳以上の大人が打つと、带状疱疹の発症を60%程度抑えることができます。しかし接種後5年を超えると効果がだんだん少なくなり再接種が必要になります。もう一つはシングリックスという組換えワクチンです。50歳以上で97%、70歳以上でも90%ととても高い発症予防効果です。2ヶ月～6ヶ月あけて2回打ちます。何年後に再び打たなければならないかはまだデータがないのですが、現在までの追跡調査では10年経っても予防効果は70%と高く、一生に一度の接種でよくなるかもしれません。どちらを選ぶかは財布との相談、ですが、今まで水ぼうそうにかかったことがない人はまず生ワクチンを打つことをお勧めします。組換えワクチンは「以前水ぼうそうにかかった人たち」を対象にして効果の検討をしているため、かかっていない人にはどのくらい効果があるかがわからないためです。一方、水ぼうそうにかかったことのある人には、できれば組換えワクチンをお勧めしたい。お金はかかりますが有効性が高いワクチンだからです。ただ副反応としてコロナと同じくらいの発熱があった、という方が多いようです。解熱剤(市販のカロナールやロキソニン)を用意してから接種を受けてください。

種類	接種回数	自己負担		
水痘ワクチン (生ワクチン)	1回	鎌倉市からのハガキあり	3,000円	
		自己負担免除の接種券あり	無料	
		ハガキなし	組合員	5,260円
			未加入	8,470円
シングリックス (組み換えワクチン)	2回 (2ヶ月以上あけて)	鎌倉市からのハガキあり	1回ごと 7,000円	
		自己負担免除の接種券あり	1回ごと 無料	
		ハガキなし	組合員	19,770円
			未加入	26,070円



所長 宮下 明

診療所だより 195号
2025年4月25日発行より